九州新幹線塩鶴トンネル貫通

延長4175メートルが貫通

貫通スイッチを点火する市橋次長（左）ら
＝塩鶴トンネル坑内で

「九州新幹線塩鶴トンネル工事」貫通式が31日、日置郡市来町と東市来町にかかる同トンネル坑内で行われ、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局や行政関係者、施工業者らが出席して貫通を祝うと共に、今後の無事故での完成を誓った。

貫通式では、田中健二九州新幹線建設局長、小園雅美鹿児島総務事務所長、内道明県議、大久保幸夫市来町長、下茂孝一東市来町長が貫通掘削の儀を行い、貫通スイッチが押されると轟音が響き渡り、無事貫通した後、田中局長をはじめ関係者が通り初めを行い、貫通点で固い握手を交わしたほか、担ぎ込まれた樽酒みこしが通過点に置かれると盛大に鏡開きが行われ、貫通を祝した。

直会では、田中局長が「鹿児島ルートの鹿児島県内の用地取得は100%で、新八代～西鹿児島間の土木完成率は80%になる。残る工事の工期内完成を目指して尽力して参りたい」と挨拶。

祝辞の後、施工者を代表して㈱熊谷組の鳥飼一俊社長が「無事故無災害に努め、工期内の完成を目指すよう精進したい」と言葉を寄せた。

同トンネルは、延長4175㍍で県内で2番目の長さとなり、施工の特徴として起点側からのみの掘削で貫通させた。総事業費は約100億円。施工は㈱熊谷組・日本国土開発㈱・㈱白石JVが担当した。

明日に駆ける

㈱東野添建設 土木部

金坂 浩太郎さん

毎日の積み重ねを大切に

東京生まれの38才。7年前に約10年間勤めた広告代理店を辞め、夫人の郷里でもある鹿児島へ。「子供のことを考えると、東京よりも自然が多い鹿児島の方がいいかなと思いました」。

平成7年に同社に入社、以後若い社員に交じりながら、現場を駆けまわり人一倍苦労をしてきた。「良い物を相手に提供するプロセスはどの仕事も一緒だと感じた」と今日までを振り返る。今では、土木施工管理技士・建設機械技士の1級資格を取得。現在、桜島砂防事業の現場代理人として現場を指揮、人望も厚い。「自分ではよく分かりませんが、評価は人がしてくれるもの」と謙虚に語る。

今までで一番印象に残った言葉は、前職時に元横綱千代の富士関がインタビューした際に口にした「次の一勝」。「毎日の積み重ねが、明日の勝利につながるということ。今では、自分の座右の銘になってます」。鹿児島市持木町650－3。

県建設業協会

建設業の適正取引講習会

競争、透明性の向上を

県建設業協会（谷口屯会長）は31日、鹿児島市のサンロイヤルホテルで、県建設産業団体連合会、建設業適正取引推進機構との共催で、建設業の適正取引に関する講習会を開き、建設関連業者約200人が参加、4月に施行された公共事業適正化法について学んだ。

開会に先立ち、内田清専務理事が「公共事業の予算10%削減が話題となっているが、予算の約6割を公共事業に依存している本県においては、非常に深刻な問題である。そのなか、採択の見直し、そ常い割コスト縮減など受注環境は一層厳しさを増してきているのが現状だ。これからはITの時代、14年度より試行される電子入札の導入など、時代は目まぐるしく変化するだろう。今日の講習を、自社の今後の運営の糧としてほしい」と挨拶。

公共事業適正化法を学んだ講習会
＝鹿児島市のサンロイヤルホテルで

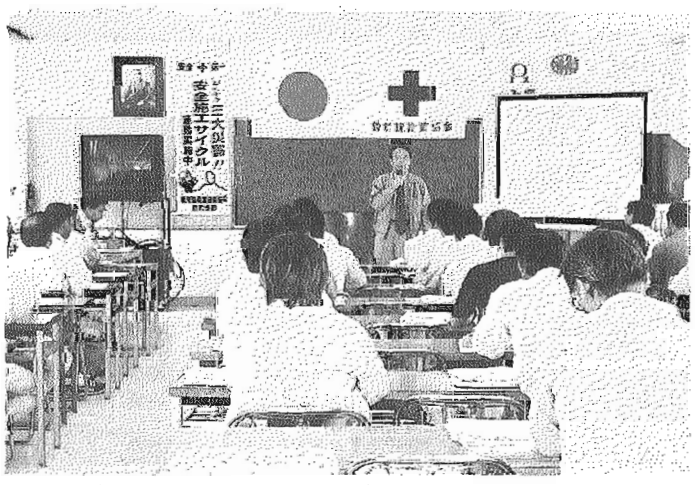
続いて、九州地方整備局の小原一美建設産業調整官が、建設業をめぐる最近の話題、建設業適正取引推進機構の小関征二氏が、独禁法の遵守についてと題してそれぞれ講義を行った。その中で、建設投資の低迷、受注の減少、利益率の低下により業界が危機的状態に直面していることなどを統計データを基に説明。また、競争性、透明性の一層の向上を図るため、WTOなどの入札・契約制度の改善や、今後の建設業の目指すべき方向について説明した。

無災害現場へ研修会

建災防曽於分会 安全衛生管理担当者52人

建設業労働災害防止協会県支部の安全衛生管理担当者と現場所長を対象とした、中小総合工事業者指導向上事業に係る研修会が26日と27日の両日、曽於分会を対象に、曽於郡大隅町岩川の大隅建設会館で開かれ、2日間で52人が受講し、それぞれに受講修了証が交付された。

同研修会は建設業における労働災害は、就業人口が全産業の約1割であるのにかかわらず、依然として全産業の死亡災害の約4割を占めており、そのほとんどが中小総合工事業者が元請となって施工した工事で発注している現状にかんがみ、安全衛生管理のノウハウの蓄積、関係請負業者に対する指導を目的に、厚生労働省の委託事業である「中小総合工事業者指導力向上事業」の一環として展開しているもの。



安全衛生管理のノウハウを学んだ研修会
＝大隅町の大隅建設会館で

最終日の27日の現場職長研修会では建災防県支部の八木純一郎労務部長が「これから年末の事故多発期に入る。労働災害の撲滅に向け、どのような安全管理を成すべきか、果たすべきかを真剣に考え、この研修会を実のあるものにして頂きたい」と挨拶。また、川畑勇三曽於分会長は「当分会管内は5年間ゼロ死亡の状態。公共事業、地方交付税も減る中、無災害で効率のよい現場を仕上げてほしい。これからの現場見学会、研修会で得るべきことは多い。しっかり勉強し、今後の現場づくりに反映してほしい」と激励した。

この後、マイクロバスで末吉町岩崎の垂水南之郷線の県単道路整備（交付金A）工事（岩崎1工区－㈱有川組施工）の現場に向かい、西丸美樹男現場代理人の説明を受け、現場を見学した。

午後からは志布志労働基準監督署の南和樹監督官が「建設業における労働災害発生状況等と関係法令」について、中小総合工事業指導員の関秀正氏（五洋建設㈱南九州支店安全環境部長）が「現場所長の役割と職務」「安全衛生管理の進め方と手法」「機械設備等安全化及び作業環境管理と健康管理」「災害分析の方法とその活用」についてテキストをもとに長時間にわたって講演した。

県建築士会南薩支部 技術講習会

確認のFD申請学ぶ

県建築士会（川上道夫会長）は30日、加世田市の南薩建設業会館で南薩支部会員を対象とした建築技術講習会を開き、会員ら60人が13年建築基準法施工規則の改正等について真剣に学んだ。

冒頭、上野芙美子事務局長が「50周年記念を前に会員普及率が山口県を抜いてトップになり会員の意気込みに感謝します。来年の記念事業への積極参加でぜひ成功を」と述べた後、岸部憲二支部長が「県本部士会創立50周年事業を迎えるにふさわしい建築行政実務必携2001年版が県土木部建築課監修のもと士会発行で出来あがり、我々の必須の1冊を手にできた。本日の講習会でしっかり身につけてもらいたい。来年は支部一丸となって本部50周年記念事業を支えていきたいので、貴善の協力を」と挨拶した。

講習会では、実務必携、定期報告制度、被災建築物応急危険制度判定登録について、県土木部建築課の田尻俊宏技術主査が、福祉のまちづくりと題して県保健福祉部障害福祉課の吉田秀博主査が説明した後、建築確認申請のFD申請についてスライドを使って大迫正明氏（㈱アルディプラン）が指導した。

最後に新屋敷幸隆部長が「貴重な講習会、更なる発展を期待し、来月は建築中の農大現場見学会など実施しますので奮って参加を」と呼びかけ閉会した。